



国会正門前で子どもたちといっしょに座り込む木谷直香さん＝15日、東京都千代田区

午前10時すぎ、人けのない国会正面の交差点に、埼玉県の主婦・木谷直香さん(32)がベビーカーを押してやってきます。雨の日も炎天の日も2カ月間、連日のように、2歳の次男をあやしむながらプラカードを掲げ、戦争法案の廃案を訴えてきました。

7月上旬、初めて国会

前行動に参加。「昼間なら子ども連れて行ける」と思い立ちます。4歳の長男を幼稚園に送り出し、電車を乗り継ぎ通い続けました。「最近まで私も政治に無関心でした。ここに立つことで、ドライパーや修学旅行生に考え

てもらおうきっかけになれ

子どもと連日国会前へ

9/18 五折

埼玉県 木谷直香さん(32)

ラジオ番組では大竹氏がこう紹介しました。「デモのない午前中の国会正門前、本当におまわりしかいない、車が通っている中を一人だけいらっしやるの。乳母車に『子どもを戦争には行かせない』と書いてね。強い意思を感じるよね。伝わるんじゃないか」

ママの会で訴え

「安保関連法案に反対するママの会」に参加し、初めて議員要請で議員会館を回り、土砂降りのなか子どもと宣伝カーにのぼって訴えました。同じ思いのママたちと友だちに。

「苦労して育てた子どもを、アメリカのための戦争なんか絶対やりたくない。ママたちはあきらめません」

(内藤真弓子)

海上自衛隊の基地がある広島県呉市。駅前で食堂を営む森田鈴子さん(69)は昨年秋、「自衛隊員の命を守るため全力を尽くします」と書いた立て看板を店先に設置しました。それから10カ月、自衛隊員が食事に訪れることが増えました。「上司から勧められました」という若い隊員もいます。

「看板、よう自立ってるのう」という客に「ありがとうございます」と元気な声が飛び交います。創業102年の老舗で、鈴子さんは3代目の店主。かつて呉市がNHK大河ドラマの撮影の舞台になったとき、主演男優が来店し、生放送で森田食堂のメニューを紹介して、ファンが詰めかけ

止めよう 戦争法案

「海自の街」で看板を設置

広島・呉市 森田鈴子さん(69)



店先に看板を立てた森田鈴子さん(左端)と堀越さん夫妻＝広島県呉市

たことがあります。

毎週駅前立つ

鈴子さんは、呉民主商工会の会員で、日本共産党議員後援会にも加入しています。東日本大震災が発生し、ボランティアや消防、自衛隊などの救援活動を見て、「私たちにもできることはないか」と近所で活動する堀越和行さん(73)と和子さん(75)夫妻に相談しました。餓死したの

が街角宣伝。毎週金曜日に救援募金をよびかけました。その後も、「じいさん赤旗」をコピーした手作りのビラを配り、戦争法案や消費税増税、TPP(環太平洋連携協定)などの重要問題で安

倍速政治を告発し、駅前立ち続けました。「おやじはフィリピン」のミンタナオ島で死亡し、戦後2年もたって届いた公報に「戦病死」とありました。餓死したのです」と和行さん。「母親は『おまえたちは絶対

殺し殺させない 若い隊員たちとよく話をします。うちの店員は『今度、みんなを誘って来てね』と気軽に声をかけていますよ」と鈴子さん。

1960年代、呉の商店街のなかには「自衛隊員さん歓迎」と書いた垂れ幕を掲げていたといいます。鈴子さんは「宣伝をして見せるのは、食堂に来る隊員も、来ない人も、呉に住んでいて、私にとってはかわいい子どものような存在です。米軍と世界に出ていって外国の人をあやめたり、殺されたはだめ。戦争法案ノ」を訴え続けていきます」と話しています。

(名越正治)